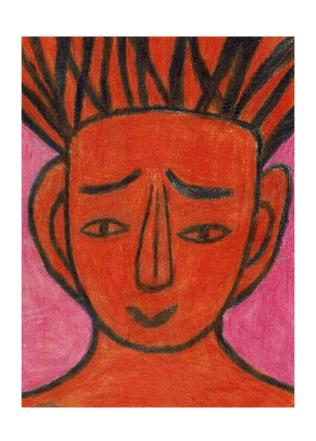
わが洋園 50周年の歩み



特定非営利活動法人 わかば福祉会 わかば学園50周年記念誌 (令和元年 10 月 11 日開園 50 周年)

わかば学園 50 周年行事

≪開催場所≫ 加古川市立 尾上公民館 (加古川市尾上町池田 1804-1)

≪プログラム≫

令和元年9月29日(日)

式 典 午前9:30 ~ 午前11:00 (大ホール) ※全員参集

「わかば学園 50 周年記念式典」

9:30 ご来賓あいさつ 久保田先生あいさつ

10:00 スライド上映 「わかば学園の歩み」

10:45 利用者から歌の披露

①ありがとうの花

②糸

③乾杯

④わかば学園 50 周年の歌

⑤わかば学園久保田先生の歌

ミニコンサート

<u>午前 11:15 ~ 午後 12:00 (大ホール) ※自由参加</u> 「かしわもちライブ」 かしわもちかずと

明石市在住。視覚特別支援学校に通う高校3年生。先天性網膜の病気で両目とも光覚なしの全盲。幼いころから弦楽器に興味、小学3年生の時に独学でギターを弾き始める。初のオリジナルアルバム「届け!僕の歌」。

交流会

午前 12:15 ~ 午後3:00 (大ホール) ※自由参加 「カフェと軽食で親睦を」

カフェ・サンドイッチ・カレーライスを食べながら思い出を。

映画

わかば学園 50 周年プレ企画 令和元年 9 月 28 日(土)

午後1:00 ~ 午後3:00 (大ホール) ※自由参加

「星に語りて~Starry Sky~」 松本 動 監督作品

2011年3月11日、東日本大震災、障害のある人と支援者の物語。

作品展 両日 「書道家 隅野由子さんの作品展」 (講義室)

1985年加古川市生まれ。ダウン症の芸術家で、その日々の中で心に浮かんだ言葉をそのまま筆に込め、その想いを書や墨画で表現。書道家として、作品集の出版、講演会、作品展など国内外で活動。

ありがとうの花

みんな歌ってるよう (女くり返し) みんなが笑ってるよみりがとうの花が咲くよ者の町にも ホラ いつか

歌い出す

米

遠い空の下 ふたつの物語どこにいたの 生きてきたの 掛たちは いつも知らないいつ めぐり違うのかを 私たちは なにも知らないなたちは なにも知らないなぜ めぐり違うのかを

暖めうるかもしれない織りなす布は いつか誰かを継の糸はあなた 横の糸は私

風に吹かれ 明日に飛んで行く町中に咲いてる ありがとうの花何度もありがとう何度もありがとうその顔がうれしくてみんなが笑ってる ありがとうって 言ったら

みんなが笑ってるよありがとうの花が咲くよありがとうの花が咲くよ君の町にも ホラ いつかありがとうの花が咲くよ

みんなと一緒 ありがとうおっきくふくらんでおっきくふくらんでかさかった花の夢みんなで歌らことあたたかい手をつなぎ一緒に歌らこと一緒に歌らこと

今でも君の心の中にいますかふるさとの友はいくつかぞえたろういくつかぞえたろう洗む夕日をたったのだろう

君に幸せあれ歩き始めたはるか長い道のりを大きな 大きな 舞台に立ち乾杯 今 君は人生の

心もとなくて 震えてた風の中こんな糸が なんになるのころんだ日の跡の ささくれ 夢追いかけ走って迷った日の跡の ささくれ 迷った日の跡の ささくれなぜ 生きてゆくのかを

人は 仕合わせと呼びます逢うべき糸に 出違えることを縫の糸はあなた 横の糸は私像の糸はあなた 横の糸は私傷をかばうかもしれない織りなす布は いつか誰かの総の糸はあなた 横の糸は私

乾杯

肩をたたき合った あの日時には傷つき 時には管び 語り尽くせぬ 青春の日々かたいきずなに 想いをよせて

わかば学園五十周年の歌

がんばってるよ 応援してねわかばの五十年 感謝ですわかばの出会い ありがとう 私たち みんな わかばの仲間

を領でぼす。作ってる マドレーヌ クッキー ケーキ 私たち みんな わかばの仲間

わかばのお菓子 おいしいよ笑顔で毎日 作ってる

わかばの野菜 おいしいより 畑にいって がんばるぞ にんじん だいこん ほうれん草 私たち みんな わかばの仲間

助けあって くらしていくよみんな大好き いつもいっしょたまには ケンカもするけれど 私たち みんな わかばの仲間

わかば学園 久保田静子先生

先生 先生 みんなこたえて がんばるよ先生の背中を 見て聞生みんなも不思議に思うけど ざうして そんなに元気なのばたらく先生 元気だないまななのまで 休みなしばれる 休みなし

長生きしてください

父さん母さん先生の私たちみんなわかばの仲間

楽しい思い出 ありがとう元気をくれて ありがとう

みんなで一歩一歩 つみ重ねてきた50年

わかば学園の年表

バザー会場



1979 (昭和54)

1月5日

7月14日





15

1969(昭和44) 10月11日

久保田静子先生も和暦と同じ44歳!

加古川町備後に「わかば学園」開園











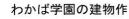
現在地である尾上町養田に移転

「福祉の店わかば」オープン























32 38 24 25 26 28 29 30





1997 (平成9) 玄関増築

> 1999(平成11) 新しく土地購入 造成工事



2003 (平成15) 4月 「菓子工房」設立 5月 寺家町商店街に 「ふれ愛ランド」オープン



































兵庫県高齢者特別賞受賞!

グループホーム

「森の家」設立

久保田先生は現在94歳 あふれでる情熱とパワーに脱帽!



43 39 40 41 42 45 48 49 50 44 46

2008 (平成20)

4月

バイオディーゼル事業 開始 10月

「特定非営利法人 わかば福祉会」設立

2009(平成21) 4月

> 指定障害者福祉サービス事業 就労継続支援B型に移行



2013 (平成24)

グループホーム「ふれ愛ホーム本館」設立

4月







2016 (平成28) わかば学園開園50周年!!



2019 (平成31) 4月 尾上公民館に 「喫茶わかば」オープン







学園名物の手作りお寿司



早朝から作る手作りあんぱん





わかば農園



わかば学園を語る上で欠かせないのは 園長先生の最愛のパートナー

「校長先生」。

44歳で新たな、大きな一歩を踏み出す 決意をした園長先生を、いつも隣で おだやかに、あたたかく支え続けて こられました。

校長先生が亡くなられてから7年。 いまもきっと園長先生と学園のみんなを優しく 見守ってくれている…そんな気がします。



















わかば学園の紹介

≪わかば学園の願い≫

- ①ここに集まる人たちが、ほんとうに人間として重んじられる学園でありたい。
- ②ひとりひとりが持っている能力を、力いっぱいひきだしていきたい。
- ③地域とのつながりの中で仕事をすすめていき、社会福祉や人間そのものについての誤った考え方を学園の働きを通して変えていきたい。

≪わかば学園の沿革≫

昭和44年10月11日、障害者(児)をもつ親たちをはじめ、市内小中学校の障害児学級担当者、一般地域社会の数多くの人々の熱意と善意により、わかば学園は加古川町備後に開園しました。当時は、中学校卒業後の進路としては、一般就労か、就労できずに社会に出ることなく家で過ごすか、いずれかの選択でした。一般就労ができる障害児はごくわずかで、ほとんどが家中で過ごし、社会と閉ざされた生活を送っていました。わかば学園の開園により、就労できない障害児(主に知的障害)と保護者が集まり、印刷作業、裁縫、クッキーなどを作って販売して、園生は作業工賃を得ました。その後、昭和54年1月5日に現在地の尾上町養田(大崎町内会)に移転しました。

わかば学園は開園当時から無認可の小規模作業所のため、公的な運営資金の援助を受けることなく、学園を運営してきました。職員の人件費、施設や設備等の管理費は、すべて学園の収益や寄付によって賄っていかなければなりません。そのため、地域のたくさんの人々やボランティアのご協力とご支援によって、学園を運営することができました。特に開園当時から、毎年実施している秋の開園記念バザーは、学園の大きな収益となっています。地域のみなさんからたくさんの日用品等を寄贈していただき、また、バザー当日もたくさんの人々が集まり、模擬店の食べ物、手作り品、野菜、バザー品等を買っていただいています。

平成 15 年 4 月に「わかば学園 菓子工房」を設立し、クッキー、パン作りの設備環境の充実を図りました。また、平成 15 年 5 月に「ふれ愛ランドわかば学園寺家町分校」が加古川駅前の寺家町商店街にオープンして、学園の手作り品やリサイクル品の販売と、食事・喫茶の提供によって、地域の人々と日常的に直接ふれあう機会を持てるようになりました。さらに、平成 20 年 4 月に廃食油をディーゼルエンジンの燃料として再利用する「バイオディーゼル事業 (BDF)」を開始して、男子園生の作業の幅を広げてきました。

平成 18 年 4 月に障害者自立支援法が施行され、障害福祉サービスが始まり、小規模であっても 障害福祉サービス事業所として、サービスを提供して報酬を得ることができるようになりました。 それに伴い、わかば学園も、平成 20 年 10 月に「特定非営利法人わかば福祉会」を設立し、障害福祉サービスの運営主体となり、無認可の小規模共同作業所から、平成 21 年 4 月に指定障害福祉サービス事業に移行しました。そして、一般就労が困難な障害者に対して生産活動や就労訓練などの支援を行う「就労継続支援 B 型事業所」となり、サービスの提供によって、安定的な報酬を得ることができる事業所に生まれ変わりました。

その後、わかば学園の利用者と保護者の高齢化という問題が出てきました。そのため、親亡き後も、学園の利用者が安心して住み慣れた地域で暮らせるように、共同生活の中で相談や日常生活の援助を行うグループホーム開設の準備を進めました。そして、平成 24 年 2 月にグループホーム「ふれ愛ホーム本館」設立し、その後、平成 28 年 4 月にはグループホーム「森の家」設立して、定員を増員しました。

そして最近では、平成31年4月に尾上公民館喫茶コーナー「喫茶わかば」がオープンして、利用者の就労訓練の内容の充実を図りました。

≪わかば学園の事業≫

就労継続支援 B型 わかば学園 定員:40名

わかば学園 菓子工房



ふれ愛ランド 寺家町商店街



尾上公民館 喫茶コーナー 「喫茶わかば」



グループホーム 「ふれ愛ホーム本館」 定員:女子6人 「森の家」 定員:男子5名

ふれ愛ホーム本館



森の家



≪わかば学園の作業≫

(作業内容)

- □野菜作りの農作業、クッキー・ケーキ・マドレーヌなどの菓子作り、除草作業(地域から依頼)、バザー用リサイクル品の収集など。
- 口学園の朝市(毎週火曜日)での野菜・クッキー・パンの販売。
- 口ふれ愛ランド、尾上公民館「喫茶わかば」での喫茶・食事提供と授産品販売。

(作業工賃)

口利用者の一人当たりの月平均:約22,000円。出席日数に応じて支給。

≪クラブ活動≫

月に2回、金曜日の午後に実施。スポーツ(卓球)、習字の活動を職員が支援。

≪音楽療法≫

月に2回、音楽療法士の岡山先生による音楽療法。

≪ふれ愛ランド就労体験実習事業≫

- 口兵庫県立いなみ野特別支援学校・東はりま特別支援学校より、毎週土曜日に2名ずつ、寺家町の「ふれ愛ランド」に就労体験実習を受け入れて、職員が就労指導を実施。実習期間は1年未満。
- 口実習の作業工賃は、1日:1,000円支給。特別支援学校の高校生は初めてのアルバイトで、働く喜びを体験。
- 口加古川市手をつなぐ育成会:学童部会を通して、特別支援学校の実習生・保護者と 調整して受入れを決定。

わかば学園の年間行事

(4月)「ワークハウスくれよん」 合同お花見会



(6月) バス旅行



(7月) 七夕のつどい



(7月) しお風遊イング



(10月) 大崎町内会秋祭り



(11月) 開園記念バザー 尾上公民館



(12月) ふれあい スポーツ教室 ボーリング



(12月) クリスマス会 浜手地区社会教育・福祉教育推進員



(12月) 餅つき



(3月) 鶴林寺太子祭出店



わかば学園 商品の紹介

(価格はすべて税込です。予告なく変更になる場合があります)

わかば学園で製造・販売している商品です。 他にも、季節によってさまざまな商品があります。 学園でのバザー、朝市、各地のイベントなどで販売しています。



菓子工房のイメ ージキャラクタ ー(名前、募集 中です♪)

	4000000		
手作りクッキー	マドレーヌ	レモンケーキ	
(小) ¥110 (大) ¥300	(小) ¥80 (大) ¥110	¥120	
こだだわりの原材料で丁寧に	やさしく自然な甘さで、卵とバ	しっとりした生地とレモン果	
焼き上げた、定番の人気商品。	ターの風味がふわっと香りま	汁のさわやかな香りがたまり	
バター・マーブル・レーズン・	す。	ません。	
アーモンド・アーモンド薄焼			
き・コロコロ・チョコ・生姜の			
8種類。			

		\$17.17 t	
パウンドケーキ	手作りパン	手作りみそ	
¥400	¥80~	(小) ¥500	
		(大) ¥1,000	
しっとり、リッチなおいしさ。	小さめサイズでおやつにもぴ	学園で採れた大豆・米こうじを	
バター・マーブル・レーズンの	ったり。	原料として、じっくり時間をか	
3種類。	あんぱん・メロンパン・コッペ	けて作りました。	
	パンなど、どれもおススメ!	懐かしい味わいを一度ご賞味	
		ください。	

わかば学園50周年記念 (久保田静子先生にインタビュー!)



(質問)

先生は、当初、小学校の障害児教育に携わって いたとお聞きしましたが、当時の状況は? (久保田先生)

私は、大正 14年1月21日生まれです。昭和18年に18歳で別府小学校に赴任し、低学年から高学年まで普通学級の担任をしていました。

昭和36年の36歳のとき、加古川市内で別府小学校に初めて障害児学級が開設され、10名の障害児の担任をしました。当時は、障害児に小中学校の一環教育を行うために、浜の宮中学校にも初めて障害児学級が開設されました。

私が別府小学校で障害児学級の担任をすることになった理由は、別府小学校での経験が長かったことと、別府町の地域の実情をよくわかっていたため、自分が障害児教育をやらねばと決心しました。そして自分から申出て、開設前年度の昭和35年8月から障害児学級の開設準備にとりかかり、昭和36年から昭和44年までの9年間、別府小学校で障害児教育を実践しました。

当時、市内では他の地域においても、小中学校の障害児学級が開設されました。それぞれの障害児学級担任が孤立しないように集まり、勉強会、クリスマス会やキャンプなどの行事を自主的に行いました。

(質問)

わかば学園を開園した理由と、当時の学園の様子は?

(久保田先生)

当時の中学校の障害児教育は、タイル工や印刷 工の職業訓練で、卒業後に就職できたのはごく一 部でした。就職できない人は、行き先がまったく ない状況でした。

別府中学卒業後に家でテレビを見て過ごすだけの知的障害の人がいて、その人をなんとかしたいと考えていたときに、知り合いの先生から、加古川町備後の空いている小屋を提供してもらえることになりました。20 坪ほどの平屋の小屋で、トイレ、台所、畳の部屋がありました。公的な援助は一切なかった時代です。尾上町の荒尾医院の荒尾院長(現はりま病院)から 10 万円の寄付をいただき、小屋を改装しました。

そして、昭和 44 年に 10 月 11 日にわかば学園を開園し、5 名ほどの知的障害の人が通いました。浜の宮公民館で料理教室をしていた冨永先生が、クッキー作りに協力してくれました。他の作業は、箸入れの内職をしました。また、園生が自力で登園できるまで、自転車の後ろに乗せて送迎をしました。体重の重い男子園生もいて、なぜこんなことをしないといけないのか、という気持ちになったこともありました。

昭和 45 年に小屋の隣にもらってきたプレハブを建てました。中学校で印刷工の職業訓練を受けた人がいたので、プレハブで印刷の作業を始めました。

その後、備後の小屋が使えなくなったので、昭和54年1月に現在の尾上町養田(大崎町内会)に学園を移転しました。自分所有の地上げをした土地に100万円ほどの費用で、今のわかば学園を建てました。学園を建てたのは園生の父親(大工さん)で、約3ヵ月かけて大きな工事以外、ほぼ一人で建てました。また、屋根瓦は他からもらってきて、ボランティアが瓦を洗いました。この

ように、わかば学園はたくさんの人々の協力によって、つくり上げてきました。

また、加古川市内には知的障害者施設として、昭和49年に「加古川市立つつじ園」、昭和54年に「はぐるまの家」が開設しました。2つの施設の開設時に、育成会からわかば学園の吸収の話がありました。しかし、いろんな施設があった方がいいのではないかと考えて、断りました。小規模作業所は堅苦しいこともないし、自分が必要と考えることは自由にできるので、今のままの方がいいと考えました。

(質問)

わかば学園の特徴は?

(久保田先生)

わかば学園の特徴は、今まで自分が大切なことと考えて、長年の取組みの中で積み上げてきた結果だと思います。

学園の特徴の 1 番目は、「地域に溶け込んでいる」ということです。地域のボランティアの底辺はものすごく広いので、施設が地域に溶け込んで、地域の人に助けてもらっています。町内会の夏祭り、秋の開園記念バザーなど、地域の人と一体の行事となっています。地域の人の協力と理解を得るには、日頃から地域との付き合いを大切にしていかなければなりません。地域に助けてもらうばかりでなく、学園が地域に喜んでもらうこと、貢献していくことが必要です。町内会の除草作業、お祭りには積極的に協力します。

学園の特徴の 2 番目は、「親の協力が大きい」ことです。親が学園の活動に参加することによって、子どものこと、学園のこと、地域のことのすべてが見えて、理解できるようになります。また、小規模作業所の頃から、学園の運営は親の協力のもとに成り立ってきました。親の活動は、親の作業の当番日として割り当てています。作業内容は、①(8月)大崎町内会の夏祭り、②(11月)秋の開園記念バザー、③(3月)鶴林寺太子祭のバザーといった、3つの大きな行事の準備です。集めたバザー用品の分類と値段付け、当日の模擬店の食べ物関係の用意など、スケジュールにそって計画的に準備を進めています。週に1日くらいは学園に親が来て、バザー等の準備をしていることになります。もちろん、親が全員同じように活動で

きるわけではありません。仕事をしている親など、 作業日に参加できない人もいますが、できる範囲 で学園の活動に協力しています。

学園の特徴の3番目は、「園生同士の助け合い」です。日頃の生活の中で、困っている仲間がいれば助けることを指導してきました。それによって、仲間としての意識も強まり、思いやりの気持ちが育ち、集団での適応能力も向上します。園生の中には、パニックになって急に暴れて、仲間の腕につかみかかり、髪の毛をつかんで引っ張る人がいます。そんな状況でも、仲間同士で声をかけて、パニックを制止したり、薬を取りに行ったりと、自分たちで助け合って対応しています。そして、パニックが治まった後、髪の毛を引っ張られたことを恨むことなく、いつものようにみんな普通に過ごしています。

学園の特徴の 4 番目は、「近所の若宮小学校との交流」の積み重ねです。特に小学 4 年生の学年の子どもとは毎年交流する機会が多く、秋のバザーの前は放課後にバザー用品の値段づけの手伝いに、担任の先生といっしょに子どもが来てくれます。もちろん、学園も若宮小学校の音楽会、運動会等の行事や、運動場の除草作業に毎年参加しています。学園は若宮小学校の通学路の道沿いにあるので、利用者は登下校中の知っている子どもに会うと、友だちのように声をかけています。若宮小学校との交流によって、小学生の間に障害者のことを正しく理解してもらえることは、子どもにとって大変有意義なことと思います。

(質問)

わかば学園の今後の取組みについては? (久保田先生)

今後の目標として、わかば学園地域交流センターをつくりたいと考えています。1 階は地域の人々の居場所として活用してもらい、2 階は学園の人が65 歳を過ぎて介護が必要な状態になっても、生活できる施設をつくりたいと思います。

わかば学園を地域生活支援の拠点として、一生 涯、住みなれた地域で安心して暮らせるような学 園にしたいと考えています。



わかば学園50周年記念 (メッセージ集)

•	п	ולד			7
l	Н	A)	ΙE	▦	

- 1 久保田 陽子 〈P4〉
- 2 善甫 慶子 〈P4〉
- 3 稲岡 綾子 〈P5〉
- 4 稲葉 和代 「久保田園長と出会って」 〈P5〉

【保護者・利用者】

- 6 恒光 美華 「わかばの 4 年間」 〈P7〉
- 7 安永 智苗美 「繋がり」 〈P7〉
- 8 永尾 彩華 パウラ 「はじめての経験から頑張っている自分」 〈P8〉
- 9 田中 伸幸 〈P8〉
- 10 鹿間 聖子 「わかば学園の思い出」 〈P8〉
- 11 石井 勇輝 「わかば学園との出会い」 〈P9〉

【団体・ボランティア・その他】

- 12 社会福祉法人加古川市社会福祉協議会 理事長 山本 勝「祝 開園 50 周年」〈P9〉
- 13 加古川市手をつなぐ育成会 会長 澤田 きみよ 〈P10〉
- 14 神戸製鋼所加古川製鉄所 職長会会長 早川 貴之 「わかば学園 50 周年について」 〈P10〉
- 15 鶴林寺長老 幹 栄盛 「おいわい」 〈P11〉
- 16 尾上豊成 「わかば学園創立 50 周年に寄せて」 〈P11〉
- 17 ぽこあぽこ 三澤 紀子 「わかば学園 50 周年に寄せて」 〈P11〉
- 18 ぽこあぽこ 角谷 和子 「わかば学園 50 周年に寄せて」 〈P12〉
- 19 わかば会 蓬莱 朱美 「わかば学園と私」 〈P12〉
- 20 隅野 由子 「今日もきっといいことがある」 〈P13〉
- 21 近藤 芙几子·近藤 知子·近藤 中子 〈P13〉
- 22 公文教室ボランティア 渡辺 千加子

「わかば学園との出会いと公文式学習」 〈P13〉

23 元公文事務局員 須知 良正 〈P14〉

「障害のある人と教育で関わりたい、障害のある人と共に成長したい」

24 公文教育研究会 法人大阪リーダー 伊丹 美華

「可能性を最大限伸ばしていくわかば学園」 〈P14〉

- 25 公文教育研究会 平松 一成 「可能性を最大限伸ばしていくわかば学園」〈P14〉
- 26 公文教育研究会 平位 郁代 「可能性を最大限伸ばしていくわかば学園」〈P14〉
- 27 倉掛 八郎・倉掛 恵美子 「素晴らしきかな久保田先生」 〈P15〉
- 28 冨永 高行・冨永 明子 「50年とは」 〈P15〉
- 29 黒田 英郎 〈P16〉
- 30 大西 隆子 「絵手紙交流展の思い出」 〈P16〉
- 31 高校教師 蓬莱 真吾 「お好み焼きを焼き続けて」 〈P17〉
- 32 本間 隆志 〈P17〉
- 33 安達 昌子 「御縁」 〈P18〉
- 34 高砂市議会議員 鈴木 利信 「50周年によせて」 〈P18〉
- 35 酒見 真一 「40 年前の思い出」 〈P18〉
- 36 沼倉 典子 「50 周年によせて」 〈P19〉

職員

(職員 久保田 陽子)

50 周年おめでとうございます。わかば学園一途に頑張ってこられた園長先生にお疲れ様と申上げます。

私がわかば学園と関わり始めたのは、30 数年前 だと思います。当時、わかば学園のこと、障害者 のこと、何も知りませんでした。学園が北在家か ら現在の場所に移ってから、しばらくしてからで す。母が園長先生の仕事の大変なことを聞き、「何 かお手伝いできることがあれば」と言うのが最初 です。畑仕事が好きな母は、野菜作りを手伝い始 めました。毎日、園生といっしょに畑仕事をして 上手に道具を使えるようになったと、うれしそう に話していたのを思い出します。そして、私にも 何かお手伝いをしたらと言い出したのが、私と学 園との関わり始めです。でも、私には何もできる ものがなく、まず園生から、わかばクッキー、ピ ーナッツクッキーの作り方を教えてもらい、いっ しょに始めました。園生は料理の冨永先生に教え ていただき、上手にしていました。建物も作業所 は学校のプレハブの古い物をいただき、そこで印 刷をしていました。夏は、暑中見舞い、冬は年賀 状、春は転勤など忙しくしていました。学校の先 生の転勤の時期には、たくさんの注文があったよ うです。

秋のバザーには、ボーイスカウトの子どもたち も応援に来てくれて賑わっていました。バザー用 の商品もいるので、苔取りに行ったり、柿をもら いに小野市まで行ったこともあります。不用品を いただきに園長先生とよく出かけました。志方町 は広く、地理の苦手な私はいつも岡本先生に案内 していただきました。八幡町の方も行きました。 夕暮れになると方角がわからず、「ここはどこです か。どちらの方向に行けば帰れますか」と尋ねた のは、今は笑い話です。その後、男性の職員が入 ってこられたので助かりました。クッキーも販路 をつくらねばとならないので、最初「白馬」さん にお願いに行きました。マスターは快く受けてく ださり、とてもうれしかったです。その後、「明日 香 宗佐店」をはじめ各店舗、「生協」さんにもお 願いしました。また、ご好意で西神吉町の「ミユ キ」さんにも置いていただいていました。クッキ ーを買っていろいろな所で宣伝してくださった方 もいます。

みんな本当に感謝の言葉しかありません。今振り返ってみると、ただ、がむしゃらにやってきたのですが、学園の意心地がよかったのかもしれません。園長先生はじめ、親、園生、職員と一体となって頑張ってきたからだと思います。

わかば学園を応援してくださった方々、今は亡 き応援してくださった方々、ありがとうございま した。これからも、学園をよろしくお願いします。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

(職員 善甫 慶子)

わかば学園開園 50 周年おめでとうございます。 久保田先生と私の出会いは、昭和 38 年 10 月 でした。私どものところへ長男が誕生、そのとき お祝いにいらっしゃったときからです。

先生が帰られたとき、義母が私どもに、孫の手が離れたらわかば学園にお手伝いに行ってほしい とつぶやきました。

私自身、昭和59年11月に義父を見送り、義母も平成9年10月に亡くなりました。百箇日が過ぎた頃、私自身静寂に耐えられず、わかば学園に走りました。わかば学園では、久保田園長さんをはじめ理事長の久保田利男先生のお二人と、園生の笑顔に歓迎され、人生最高の喜びを味わいました。

わかば学園の園生はもちろんのこと、みんな仲良く働き、毎日のように仕事が入り、みんな心を 一つにして、仕上げたとときの喜びは、今も忘れ ることができません。

やがて独身時代を楽しんだ愚息もそれぞれ旅立 ち、やれやれと思っていた矢先、長男夫婦が共稼 ぎのために、孫育てに専念することになりました。

平成 26 年より、再びわかば学園へ私の時間が 許す限り行っています。私自身、わかば学園での ことを一部始終、妹や弟に手紙に書いて出すのが、 唯一の楽しみになりました。私も今の生活が充実 しており、健康で生かされている実感が、身をも って満足しています。

お正月に妹が我が家に来たとき、わかば学園に 挨拶に行き、先生とのお話で、明日からの生き方 を学んだと喜んでいました。

弟は岡山の出張の帰りに我が家に立ち寄り、わかば学園にもお邪魔し、園長先生の生き方に感動し、先生に便りを送ったとのことです。読ませて

もらったので、紹介させてもらいます。

拝啓 北国にもやっと桜の花が咲いたかと思えば、本州各地のソメイヨシノとは異なり、蝦夷山桜の色はピンクで風情がありますが、葉も一緒に目を出し、一瞬「葉桜?」と勘違いします。長らく北海道で暮らしていると、これはこれなりに自然からの贈り物、花が散るまで心惜しいひと時の春を満喫しています。

年度末の慌ただしい訪問でしたが、心温まる貴重なお話と手作りのクッキーをいただき、心から感謝申し上げます。

先日、姉から新聞記事が送られてきました。記事を拝読し、卒業式で歌った「仰げば尊し、我が師の恩を思い出しました。ご高齢にもかかわらず、明日への目標のため前進なさっている、お姿の一端に触れ、これこそが私のめざす人生観、今後のお手本であり、尊敬の念を禁じ得ません。

貴重な新聞記事に巡り合わせたのに、私も甘いところがあり、素直な気持ちを書きとどめることに時間を要しました。仕事といえばそれまでですが、休日返上で仕事を続行しながら、昨日で何とか目途が立ち、集中し愚文書いています。

仕事の合間、畑をやっています。種をまければ 芽が出て成長します。植物から毎年教えられるこ とが多く楽しんでいます。本業の方はなかなか成 果が出ませんが、6月26日に茨城県肉用牛生産 協会のお招きで、講演を行う予定です。これから 講演内容の検討に入ります。年とともに力が抜け、 自然体で経験した知見の取り縮めできそうです。

帯広と加古川では気象状況がだいぶん違いますが、自然の成り行きに感謝しながら、先生の目標達成の日が早く訪れることと、健康で日々楽しいことに遭遇できますよう祈っています。

高橋 良平

超えなばと 思いし峰に 来てみれば 尚 行く先は 山路なりけり

慶子の好きな言葉

 \Diamond \Diamond \Diamond \Diamond \Diamond \Diamond \Diamond

(職員 稲岡 綾子)

「こんな仕事があるんやけど」と紹介されて、 「わかば学園」の門をたたいてから、もう3年半 が経ちました。

「森の家」という名のグループホームが私の職場でした。男性5名の利用者の、朝と夕の3時間

ずつ、食事作りが主な仕事です。細々した雑用も結構ありますが。

利用者たちが暑さや寒さの中、仕事をして帰って来るので、ホームに帰ってまでも働かせたらかわいそうだと思い、ホームのことはすべて自分でやってきました。ある時、「自分でできることは進んでするのが、このホームの建前だから、自分でさせないとだめだ」と指摘を受けました。

帰宅して、エアコンをつけて、テレビを見て、 風呂に入り、夕食を食べて、またテレビを見て寝 るという毎日です。今もそれは変わりませんが。

これもみんな、男性だからさせたらかわいそうだと思う、私の古い考え方からきたのだと、深く 反省しています。

でも最近は、洗濯は自分でしてくれるし、休日 は自室に掃除機をかけてくれるようになり、大き な進歩だと喜んでいます。

時だけが過ぎていく感が強いですが、まだ今でも彼らとの接し方がよくわからず、難しさを日々痛感しています。

それから、毎月の予定表を見ても、音楽、クラブ活動、公文、運動会、地区の祭り、盆踊り等々、たくさんの行事を組んでいただいて、学園の利用者たちは本当に幸せだと思いました。その分、先生方のご苦労も大変だろうと、いつも感謝しています。

私は、ホームのことだけで何もお手伝いできませんが、どうぞよろしくお願いします。

園長先生は30余りの利用者さんを束ねられて、本当に頭が下がります。くれぐれもお身体を大切に。無理をなさらない程度に、みんなを引っ張って行ってください。 これからも、園長先生をお手本に努めさせていただきたいと思います。

50 周年おめでとうございます。

 $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$

久保田園長と出会って

(職員 稲葉 和代)

私が久保田園長と出会ったのは、今から34年前くらいでしょうか。バザーの品を持って、学園を訪問したときです。お忙しいだろうにわざわざ出迎え、いろいろ話しかけてくださいました。なんと腰の低い優しい方だろうと思いました。でも時折、目の奥にキラッと光る、芯の強いものを見たのが、私の第一印象でした。

その後も、時々チラッとお会いする程度の交流でした。ところが、今から約16年前に、「寺家町に学園の店を開こうと思っている。それを手伝ってもらえないだろうか」というお誘いを受けました。そのとき、私は自分でも老後、子ども相手の活動をしたいと計画中で、お金を注いでその準備を進めていました。でも私は、「尊敬する久保田園長のもとで働ける。好きな園生のあの人たちと関わって生活できる」という魅力に引かれ、「学園」と「自分の夢」という二股を許してもらって、引き受けました。

「地域の人たちと園生がふれあう場にしたい」という園長の願いを込めて、寺家町の店は「ふれ愛ランド」と命名し、2003年5月にオープンしました。最初は、保護者の方々も交代で手伝ってくれましたが、園生はむろん、スタッフもみんな慣れない中、いろんなことがありました。お客は障害者の人たちとあまり接したことがない人がほとんどで、理解のない人もいました。「この人たちをきちんと教育して指導することが、あなたの仕事でしょう」とお叱りを受け、「すみません」と謝ることも何度かありました。でも、園生は店に来て働き、お客と接することがうれしそうでした。「人間は自分を温かく受け入れてもらえることは、何よりの喜びなんだ」と再認識しました。

そして、少しずつ店員として成長して行きました。周囲の人たちの理解も深まって行き、「この店をふれあう場にしたい」という久保田園長の願いのとおりの店になって行きました。素人の我々が作るメニューも一つずつ増えて行き、後を継ぐ良いスタッフにも恵まれました。彼らの頑張りに支えられています。

園長は目の前に困った人がおられると、どんな事情でも受け入れていかれます。そのために、自分が困ることは省みることをしません。「また断れないから苦労が増える」と、傍らで見ている我々が心配していても、「やっぱり園長のされることは立派だ」と思い知らされる結果になって行きます。でも一方では、「どうしてこんなことが起きるのか、神様は何を見ておられるのか」と思うこともいろいろありました。中でも、一人娘さんの死はいたたまれませんでした。でも、どんなことがあっても決してくじけず、次の夢を抱き、その実現のために努力される不屈の精神には、時折、園長の中に神を見る思いがします。

私は久保田静子先生に出会えたことは、何より

の幸せでした。多くのことを教えられ、私の老後 の人生を豊かにしてくださいました。私の出会っ た最も偉大な人です。

50 年いろんなご苦労があったことと思います。 ありがとうございました。

* * * * * * * * *

利用者・保護者・OB

(保護者 糀谷 和子)

わかば学園創立 50 周年おめでとうございます。 一口で 50 年をといっても、長い年月、先生には いろいろたくさんのご苦労があったことと思い、 よく頑張ってこられたと思い、感謝しています。

娘が学園に入園してから 40 数年なります。その間、親子共々いろいろ勉強させていただき、ありがとうございました。今思い起こすと、楽しかったこと苦しかったこといろいろありました。長く頑張ってこられたのも、先生の、園生のためにわかば学園のためにという強く深い思いに一生懸命について行き、また、我が子のため何としても共に頑張ろうという思いでした。

主人が大工だったので、今の学園の母屋や古着 を入れる倉庫、また、学校の古い木材をもらって 来て、作業場も作りました。

最初の建物のときは、古い瓦や建具をもらってきて、瓦は一枚一枚と、親たちみんなで洗って使いました。作業場ができてから、私たちは縫製の仕事をして、パジャマやエプロンなどを作り、売っていました。前は加古川駅近くに市場があり、そこで子どものパジャマがよく売れ、一日に7着も縫ったこともありました。また、家では鍋敷きやコースターもたくさん作りました。

私たちの時代は、みんな力を合わせて楽しく頑張りました。親たちだけでなく、多くのボランティアの助けがあってわかば学園が成り立っていると思い、感謝しています。

時代が変わっても、人の心、人情は変わらないはず。今の親たちで先生を支えて、わかばの火を消さないようにみんなで頑張っていただきたいと思います。

 $\Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow$

わかばの4年間

(保護者 恒光 美華)

わかば学園 50 周年! おめでとうございます。 昭和、平成、令和と歩んでこられたのですね。園 長先生をはじめ、多くの方々が携わり大きな力と なり、今に至っているのですね。素敵です。あり がとうございます。

思い返せば、2015年4月、私と娘(18歳)はわかば学園の門をくぐり、わかば学園の仲間に加えていただきました。その日は、どしゃぶりの雨が降っていたのを思い出します。最初の親の作業日。倉庫を見たとき、いろいろな物があると驚いたものです。地域の皆様から、たくさんの寄贈をいただき、ありがとうございます。

そして、初めての体験、知ったこと、たくさんあります。「よもぎ」採り、「よもぎ」のあく抜き、「よもぎ」って何?から始まった私。今は4月になると頭の中は、「よもぎ」一色です。また、おはぎ・おでん・お寿司作り、お好み焼きなど、料理が苦手、不器用な私には辛いです。洗い物ならお任せあれ。見て覚える。わからない点は聴くことですね。指示していただくと、動きやすい私です。よろしくお願いします。

親の作業日は、保護者、先生方と交流できる大切な日。気分転嫁、笑顔になれる日。悩み事を聴いてくださり、感謝しています。いろんな人々と触れえるイベント!楽しいです。みんなと協力して開催終了すると、清々しい達成感を味わうことができ、うれしい気持ちになります。

B型の作業所なのに、手のかかる娘を受け入れ てくださり感謝しております。娘はダウン症、自 閉症、多動症、自傷行為と多くの障害を持ってい ます。また、多弁で暴言を言って、周囲の人に嫌 な思いをさせています。幾度も無断で作業所から 出て行き、幾度となくご心配をかけました。私は 何度、作業所を辞めないといけないと思ったこと か?その内に、娘は怖い、怒られると言い、外出 できなくなりました。無理に行かそうとすると、 娘は物を投げ暴れます。辛い、悲しい日々が続き ました。園長先生たちが声をかけてくださり、ま た車で迎えに来るなど気遣ってくださいました。 おかげ様で、楽しいイベントに参加できるように なりました。作業所に行きたいのに、素直に行け ない状態が続いていますが、私が付き添い、遅刻 ですが作業所に行ける日もあります。まだ、暴言 を言って迷惑をかけていますが、行けるようにな りつつあるのがうれしいです。利用者さんと楽しく触れ合っている姿を見ることができ、うれしいです。ゆっくり見守っていきたいと思っています。 皆様方には、感謝しております。本当にありがとうございます。

私はまだまだ未熟者ですが、お役に立ちたいです。お手伝いさせてください。これからも、愛いっぱい、魅力的なわかば学園を築いていきましょう。

 $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$

繋がり

(保護者 安永 智苗美)

娘が生まれ31年、いろいろなことがありました。娘の障害を受け入れられず、何年も苦悩な日々を過ごしていました。我が子が生まれる期待が大きく、将来の夢を描きすぎて、かわいい娘のはずが、この子さえいなければ私は幸せなのに、車で事故をしこの子だけ死ねばいいのに、外から帰ってくると隠しながら家の中に、近所の人には「子どもさんは見ないね」とも言われました。我が子なのに憎くて、憎くて仕方がなかったです。当時は主人、両親、姉は私が何かしないかと心配で、いつも見張られていたことも恨んでいました。

小学校に入学し、頼もしくて全力で娘に接してくださる先生に出会え、たくさんのことを教わり、何より娘と楽しく過ごせる喜びを教えてもらい、どんな悩みでもいっしょに全力で考えてくださる、その恩師とも25年の付き合いです。その恩師とともにわかば学園に入り、16年が経ちます。たくさんの行事に驚きましたが、娘は行事が大好きで、毎月カレンダーに予定を書いてと、楽しみに待っています。

後に「ふれ愛ホーム」が建つことになり、すぐに入所を決断しました。一人娘なので、私たちが亡くなればこの子はどうなるの?主人に相談すると、かわいい、かわいい娘を入所させるなんてと猛反対でしたが、娘の将来のことを思い、決心してくれました。何もできない娘でしたが、今では料理の手伝い、洗濯物の干したたみ、階段の拭き掃除、何より好き嫌いが多かった食事も何でも食べて、後片付けまでできるようになりました。本当に先生方に感謝です。早くに入所させたことを後悔しがちでしたが、今ではよかったと思っています。

作業の方では、シール剥がしの名人!「ふれ愛ランド」では娘の書いた絵がかわいいと言ってくださる、お客様がいます。娘の隠れた力を引き出してくださった「わかば学園」、今振り振り返ると、娘の存在すら許されずに憎みましたが、今では笑って過ごし、「ふれ愛ホーム」から帰って来ると、主人も私も愛しく思います。こんな楽しい日々が送れるとは想像もしていませんでしたが、娘のためにできる限りのことをし、家族3人で頑張って生きて行こうと思います。

最後に、娘を愛しく思えるようになったのも、 人と人との繋がりの中、たくさんのことを教えられたからだと思います。これからも、人と人との 出会いを大切にして行きたいと思っています

* * * * * * * *

はじめての経験から頑張っている自分 (永尾 彩華 パウラ)

初めて、わかば学園に行きました。仕事では、クッキーの粉ふりの仕事をしたり、クッキーを袋に入れたりする仕事がありました。クラブ活動では、先生とグランドゴルフをしておもしろかったです。卓球部のクラブ活動で、ラケットに 1 回当たりました。それから当たらなくても、くじけないように、最後まで集中を途切れないように頑張っています。わかば学園で祭りがあり、それも初めてのことでした。

家に帰って、毎日決める目標があります。明日 どれだけ頑張っていこうか?家を出るときのあい さつくらいの声が出るようにと、頑張って続けて います。クッキーの鉄板に置く向きと数を間違え ないように心がけています。

9月からも楽しいことが2つありますが、目標は、しんどい日も頑張っていくことと、当番ごとにある朝市を頑張ることです。お金がたくさん箱にあり、わからないので、いつも自分ができること、やれることを目標にして、自分から動けるようになりました。粉ふりで、小麦粉のふり方はわかっていても、少し残っていたりしている日があるので、坂本先生か、池田先生にきいたりします。でも、今日は、一人でできました。

はじめは、男の先生が怖そうだなと思いました。 わかば学園に少しずつ慣れ、声も出るようになり ました。喫茶店のモーニングでは、昼をまわると、 「ゆで玉子は出さなくていいんだよ」と、喫茶店 のスタッフの方に教えていただきました。わかば 学園に行って、すぐに黒川さとし君、山田けんじ 君とキャッチボールをして、昼休みにいっしょに 遊びました。本当にうれしかったです。またした いと思いました。朝に行ったら、恭子さんはいつ も話をしてくれ、C 班もいっしょでよかったと思 いました。当番は大変なことやしんどいこと、た まにくじけそうになったときは、園長先生の笑顔 を見ると癒されます。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

(田中 伸幸)

こんにちは。わかば学園 OB の田中信幸です。 わかば学園にお世話になったのは 10 年です。小 学校の給食の廃油回収をしているときは大変でし た。油をこぼさないように入れるのに、気を使い ました。難しく大変だったけど、楽しかったです。 夏祭りのイベントの花火がきれいでした。

今は、高砂市にある会社で働いています。平成28年6月に入社したので、3年目を迎えました。まだまだ覚えることがいっぱいですが、頑張っています。また、会社が休みのときで機会があれば、お手伝いに行きたいと思います。

* * * * * * * *

わかば学園の思い出

(鹿間 聖子)

私がわかば学園にお世話になったのは、23歳のときでした。播磨養護学校を卒業し、千種川リハビリテーションで4年間リハビリ。アマチュア無線、パソコンの使い方を修得して家に帰ったものの、どこに行くあてもなく過ごしていたとき、小学校の久保田校長先生の奥様が、わかば学園を経営していると知り、入れてもらうことになりました。

定期券を持って一人、山陽電所での通所は心配でしたが、わくわく感がありました。でも、園の友は体力に自信があり、サポートを必要とする人が少なかったのですが、私は体力に自信がなく、支えてもらいながらの日々。できることも限られていて、箸入れの数を数えたり、クッキーの袋にシールを貼ったり数を数えたり、玄関掃除などでした。

クッキー作りは楽しかった。甘い香りの中で心

が豊かになって行きました。クッキー、ケーキなどいろいろなものができるのは、日々の楽しみでした。スイーツ作りを勉強したので、自分で今も続け、家にやってくる人たちのティータイムを豊かにしています。

土曜日は学習、算数や国語の勉強を教えていただき、楽しかったです。外部からのボランティアの人々との関わりの中で、いろいろ勉強しコミュニケーション能力も養われてきました。

スキーの練習で雪の上を歩くことも、おそるお そる。滑ってみんなを慌てさせたことも。旅行で みんなと一緒にホテルに泊まったことも、なつか しい想い出です。

2年間ほどで、私の望みだったギャラリーを運営するために退所。それからも、時々想い出しては久保田先生を訪ねて、お話をするのを楽しみにしています。

1年に1回のバザーは欠かすことのできない、 私の行事の一つ。さば寿司と巻き寿司をみんなと おしゃべりしながらいただくお昼は格別です。そ の度に、園長先生のお元気な姿に会えて幸せです。

わかば学園: 久保田先生との出会いで、私が勉強したのは「無償の愛」、心を開いて受け入れる、そして自分が困ったときはお願いし助けを求める、ありがとうの気持ちを忘れないこと、障害者も健常者も共に地域で暮らせる社会をめざす、わかば学園の助け合いの精神の大切さでした。

今よりも望ましい未来を期待して、私も元気で 頑張ります。

 $\Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow$

わかば学園との出会い

(石井 勇輝)

わかば学園の園長先生をはじめ、先生方、利用者の皆様、わかば学園 50 周年おめでとうございます。

自分は中学3年生のときに、わかば学園に出会いました。ふれ愛ランドのお手伝いをさせていただき、白井さんをはじめ利用者の方に出会い、地域の方と交流をたくさんさせていただきました。

高校に上がり卒業・就職が決まり、ふれ愛ランドに行き、園長先生に報告ができ、園長先生がとても喜んでいただいたことを、今でも鮮明に覚えています。

自分はユニクロで働いています。 今年で 12年

目になります。ユニクロに働く前は、はぐるまの家に通い、指導員の方に「人と関わる仕事がしたい!」と伝えて、念願の接客業につけることができました。

これも、ふれ愛ランドでお手伝いをさせていただいて、「自分には人と関わる仕事が合っている」から、「人と関わる仕事がしたい」に変わったのだと思います。自分はわかば学園に出会えて、とても良かったなと心から思いました。

団体・ボランティア・その他

祝 開園50周年

社会福祉法人 加古川市社会福祉協議会 理事長 山本 勝

このたび、わかば学園が開園 50 周年の節目を 迎えられましたことを、心からお祝い申し上げま す。

貴園におかれましては、昭和 44 年に開園されて以来、「障がい者の社会参加と自立の支援」に大きな役割を果たされてこられました。これもひとえに久保田園長をはじめ、職員の皆様方その他関係各位の長年にわたるご尽力によるものと、深く敬意を表する次第でございます。

近年、社会福祉を取り巻く環境は目まぐるしく 変化し、生活課題は複雑多様化しています。

現在、私たち加古川市社会福祉協議会では「ささえあい 地域でみまもる まちづくり」を福祉目標に、「誰もが安心して暮らせるまち=福祉コミュニティ」をみんなで形成していくことを目指しています。地域の人たちが相互に支え合うしくみを作り、高齢者や障がい者等に効果的な支援ができるよう努めてまいります。

加古川市社会福祉協議会といたしましても地域 と一体となって、安心して暮らせる社会の実現を 目指して取り組んでまいりたいと存じますので、 今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願いし ます。

最後になりましたが、わかば学園の今後ますま すのご発展と皆様のご健勝を心からお祈り申し上 げ、お祝いのことばといたします。

* * * * * * * * *

加古川市手をつなぐ育成会 会長 澤田 きみよ

わかば学園創立 50 周年、誠におめでとうございます。

久保田園長先生が前理事長先生と共に築かれた、わかば学園は、50年の月日を経て、障がいのある人を中心に地域の人たち誰もが集えるあたたかい『安心の場所』になりました。私たち加古川市手をつなぐ育成会の礎をも築いてくださり、私たちは偉大な先輩の導きにより、誰もが人として重んじられる共生社会を目指して、ゆるぎない活動を続けさせていただいています。

育成会は学園をお借りして、『絵画教室』も行わせていただいており、15 年目を迎えています。あたたかい雰囲気の中、それぞれが穏やかな表情で自由に自分の絵を描き、作品をお互いに認め合いながら楽しい時間を共有しています。時間の終わりに三村先生のお話があり、それぞれの絵を見せ合い、そしてお茶とお菓子をいただく、どれもがかけがえのない要素になっています。そして、その様子を優しく見守ってくださる久保田先生の笑顔も、また私たちにとって大切な支えとなっています。

育成会はまた『寺家町ふれ愛ランド』での高等部生の就労体験でも、長期に渡りお世話になっています。わが子は重度の知的障がいがありますが、就労体験でお客様に出すお水のコップに氷を入れるお仕事をさせていただいたり、食べ終わった食器を下げるお仕事をさせていただきました。人様のお役に立てる仕事を生まれて初めてできたことに、親子で大喜びしたことを覚えています。この時、滑り止めのついたお盆を買って、練習したりもしました。今でもバランスのとり方が悪いので、このお盆が役立っています。障がいがあってもいろいろ工夫すればできることも増え、地域でこの子らしく楽しく生きる道が拓けるかもしれない、そんな希望を持つことを、久保田先生やわかば学園の園生の皆さんから教えていただきました。

わかば学園は、加古川ではまだ数少ないグループホームを創られ、将来地域の方々との交流スペースも含めた居住施設も計画しておられます。その前向きな姿勢に、私たちは常にパワーをいただいています。久保田園長先生の熱い想いが結実し、今後も永く学園がご発展されますよう、そして、

園長先生や学園の皆様のますますのご健康とご多幸を心よりお祈りして、お祝いの言葉とさせていただきます。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

わかば学園50周年について

神戸製鋼所加古川製鉄所 職長会会長 早川 貴之

はじめに、わかば学園50周年おめでとうございます。

先輩方が、ゆうかり会としてわかば学園に携わり、何年になるでしょう。園長先生からは、学園が今の場所にできてすぐから活動を支援してもらっていると聞いていますので、ゆうかり会も約50年のお付き合いと思われます。

毎年5月に開催される、「わかば学園」、「くれよん」合同運動会では参加した園生の皆さんは、自分で名前を記入したゼッケンを作ることから始まり、選手宣誓・ボール運び・チーム対抗リレーなど各競技に歓声を上げ、大いに盛り上がりました。上手にできたことには全員で拍手を送り、達成感を味わった園生の笑顔を見ていると、私たちも心温かいものを感じ、優しい気持ちになります。

神鋼加古川フェスティバルでは、オープニング セレモニー・メインステージのショーなどを見た 後、模擬店での買い物を楽しんでもらっています。

1年の締めくくりである餅付きは、園生の皆さんといっしょに餅を付き、美味しいおでんをつつきながら、園生とふれあい、とても良い一日を過ごしています。

最後に、ボランティア活動を通じて、人と地域 社会の強い繋がりを実感することができ、園生の 喜ぶ顔が見られたり、お礼の言葉を聞いたりする と、本当にやって良かったと思えます。ボランティア活動では、人に対する思いやり、人のために 役立つ感性を磨くことができます。今後も若い世 代の方に経験をしてもらい、より大きい繋がりを 持ち続けたいと思います。

今後も、ゆうかり会として、わかば学園を全力でサポートしていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

* * * * * * * *

おいわい

(鶴林寺長老 幹 栄盛)

わかば学園開園 50 周年誠におめでとうございます。

早あれから 50 年も経ったのかと驚いています。

さて、今から 50 年前を振り返ってみますと、 実は私の師匠・先代の覚盛住職が、市内中学校の 特別支援学級を担任していた関係で、「ちょうど鶴 林寺公園の入口に鶴林寺売店があいているので、 よければお使いください。」とお声がけすると、随 分お喜びになり、園生の販売実習を兼ねた売店の 経営を始められたのです。日頃、一般の人々とあ まり接触がなかった園生たちは、毎日喜んで励ん でいたように思います。

その頃、「ボーイスカウト鶴林寺団」(加古川第2団)が発団しており、ご存じかと思いますが、ボーイスカウトは「奉仕活動」を重視していることから、わかば学園の園生たちに何か役立つことができないかと考え、ボーイスカウト得意の「キャンプに招待しよう」ということになりました。

そこで、小野の「鴨川キャンプ場」に園生たちを招待して、ハンゴウ炊さん・歌・ゲーム・キャンプファイヤーなどをして、一晩テントで寝てもらい、参加者にたいそう喜ばれました。

その後、親を中心にボランティア活動が随分盛んになり、今では多くの人々の援助があって、今日を迎えられたことを心から喜んでおります。

例年、ツーデーマーチのとき、昔なつかしい鶴林寺売店跡地付近で、寿司・うどん・お好み焼き・その他たくさんの物品の販売が、多くのボランティアの皆様のご協力をいただいて盛大に行われ、参加者の皆様に喜ばれるようになったことも、喜んでおります。

最後になりましたが、わかば学園は加古川市や 兵庫県が経営する公立の施設ではありません。それに先立って立ち上げられ、今日まで続けられた 久保田先生ご夫婦に、心から感謝の声援をおくる と同時に、ここから巣立った多くの園生たちの未 来に「弥栄」をおくります。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆



わかば学園設立 50 周年に寄せて

(尾上 豊成)

久保田先生、おめでとうございます。そして、 いっぱい、いっぱいありがとうございます。

知的ハンディを持つ人たちは、「何の欲得も持たず、ただ自分に与えられた役割をコツコツと誠実にこなしていく」

ここには醜い争いもなく、人間本来持っている 優しい姿を見ることもできると、いつも教えられ ています。

久保田先生は、知的ハンディの心を持った偉大な人です。

だから、みんなに好かれるのでしょう!だから、 誰からも慕われるのでしょう!

先生の心は永遠です。先生の魂は不滅です。 これからもよろしくお願いします。

* * * * * * * * *

わかば学 50 周年に寄せて

(ぽこあぽこ 三澤 紀子)

この度は、わかば学園 50 周年おめでとうございます。別府小学校で障害児学級を受け持たれ、中学校を出て、行き場のない子どもたちの将来を思い悩まれ、わかば学園を開園なさったと聞いております。

主人の勤務の都合もあり、別府に移り住んで学園を知ったのが昭和54年です。それから微力ながら、わかば学園のお手伝いをさせていただいてきました。今はなき浜の宮公民館で、バザーにも関わらせていただき、その間、一生お付き合いできる仲間とも出会うことができました。多少なりともお役に立ちたいとの思いでやってきましたが、気がつけば、仲間との出会いだけでなく、地域との関わりを持つことができました。

わかば学園 50 周年にあたり、改めて学園のおかげで、お金では買うことのできない、目に見えない貴重な宝物を手に入れることができました。感謝いたしております。私も近年は体調を崩し、思うように動けませんが、仲間と共にこれからも微力ながら応援させていただきたいと思っております。本当におめでとうございました。

* * * * * * * * *

わかば学園 50 周年に寄せて

(ぽこあぽこ 角谷 和子)

わかば学園創立 50 周年、誠におめでとうございます。

久保田先生が歩まれてこられた 50 年の歳月を 思うと、私のような若輩者がお祝いの言葉など、 はなはだ僭越でございますが、少しだけ述べさせ ていただきます。

久保田先生が、骨折し入院され、お見舞いに伺ったときのことです。松本病院に入って、すぐ園生のお母さんたちに出会いました。入院されている階でエレベーターを降りると、なんとお見舞客が行列をつくっているではありませんか!私たちも病室の前で10分ほど待って入れさせていただくと、久保田先生のお言葉にまたまた驚きました。「夜になると独りぼっちなのですよ。こんなこと今までなかったのでさびしい」

これだけ見舞い客に会われたら、夜は疲れてぐっすり眠られるだろうと想像していたのに、先生はまるで正反対でした。「365 日、1 日も欠かさず、わかば学園に通っているのです。年中無休」

そのお言葉にも久保田先生=わかば学園という イメージがわいて、ただただびっくりでした。90 歳を過ぎても、なお園生が最後まで過ごせる家の 建設と、その情熱は衰えることはありません。

今はご自身、ご家族、園生のためにも、久保田 先生が一日でも長く健康でいらっしゃることをお 祈りするのみです。本当におめでとうございます。

\$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$

わかば学園と私

(わかば会 蓬莱 朱美)

随分前のことになります。確か昭和 52~53 年に加古川市広報に福祉の関する講座の案内が紹介されおり、それに参加することにしました。 たくさんのことを学びましたが、その中に実習カリキュラムがあり、私はわかば学園を選びました。

わかば学園の草創期で、北在家の小さい借家に 久保田先生が5~6名の中学生くらいの園生と、 家族のように昼間の生活をともにしていらっしゃいました。久保田先生は別府小学校で仲良し学級 の担任をしていたこと、その学校を辞して、この 働きのために特別な思いを持たれたことを知りました。中学校を卒業した子供たちは行く先がない こと、どうしても仲間と共同で作業をする場所が 必要なことも知りました。その頃は、まだ国や市 の施策もなく、先生の孤軍奮闘という感じでした。それ故、同じ思いを持たれた同僚の先生方と ともに出発されたようでした。その頃から、高砂キリスト協会のボランティアの人たちと、バザーも始まっておりました。

学園は手狭になった、その住まいから大崎の今の場所に移りました。予算も乏しく、園生の父兄や先生の教え子やボランティアが集まって、もらってきた古い瓦を冬のさなか 1 枚 1 枚と、冨永さんたちと洗ったのも楽しい思い出です。

その後、学園は益々、地域に必要とされ、増築 や宿泊施設、作業所と大きくなって行きましたが、 先生の愛娘さんや校長先生が召され、深い悲しみ も共に覚えました。

この学園を通して、随分多くの人に接することができました。いつも静かに先生を支えていらっしゃった神忍辺先生、謙虚な石野先生ご夫婦、福井先生、岸本先生、その他たくさんの先生方が協力されておりました。久保田先生にとっては、力強い同労の友であられたかと思われます。

火曜日の夜には先生を慕って、高橋さん、佐々木さん、福本さん、名倉さん、城さん、その他の方々が集まってこられました。施設によっては、ボランティアはいらないといわれるところもあるようですが、わかば学園はいつも歓迎してくださいます。それだけ開かれた施設だといえると思います。

学園に関わって細々と 40 年余り、何ほどのことをと恥ずかしい思いでおりますが、そうではなくて、私は学園にたくさんのことを教えていただきました。園生との交わり、親御さんたちの想い、多くの学園に関心を持ってくださる方々との関わり等々、それらはすべて私を豊かにしてくれるものでした。夫の介護の中でも、そっとぬけてバザーを手伝い、ほっこりと温かくなったのも覚えております。

高齢になってますますお役に立たなくなりますが、ほんの少しでもできることを、みんなで担いあうことができたらと、そんな風に思っております。





今日もきっといいことがある

(隅野 由子)

わかば園 50 周年おめでとうございます。

私が産まれる前から久保田先生は、わかば学園を設立され、ずっと頑張って来られたのですね。 50年と一口で言われても実感がありませんが、 ひとりの人間が50歳になっているわけですから、 これはすごいです。

私は 2010 年 4 月から 1 カ月間、「ふれ愛ランド」にて作品展を開催させていただきました。その時出会った稲葉先生や白井さんのお兄ちゃんやわかば学園の方たちとすぐ仲良くなり、いっぱいおしゃべりをしたこと、渡辺先生にカレーをご馳走になったこと、療育園時代のお友だちの岡本ゆうき君と再会できたこと、たくさん思い出しました。あの時は、とてもあたたかな時間を過ごしました。

人と人、時間と時間を大切につないだことによって、久保田先生の50年が今もしっかり動いているのだと思います。

私は自分の想ったこと、感じたことをそのまま 書や墨絵で表現しています。活動を始めてから、 今年で 16 年目になります。

たくさんの方に観てもらい、何かを感じてもら うために、私は私の命を使っている気がします。

久保田先生の 50 年の歩みをもっともっと教えていただきです。そして、私も私の言葉をつないで、これから何十年も歩んでいけたらうれしいと思います。

 \Diamond \Diamond \Diamond \Diamond \Diamond \Diamond \Diamond

(近藤 芙几子) (近藤 知子) (近藤 中子)

わかば学園 50 周年おめでとうございます。

手をつなぐ親の会から発展して、今日のわかば 学園が記念すべき 50 周年という長い道のりを迎 えられたことは、言葉に言い尽くせないほどのご 苦労とご努力があったこととお察しいたします。

毎年、恒例の11月のバザー、一つをとってみても、物品集め、整理して値段付け、販売、最後は集計と、準備から終了まで大変な作業。日々のイベントの参加、農作物・物品販売等、大変手のかかるお仕事。いろいろ前向きに挑戦される日々、頭が下がります。

亡くなられたご主人様はじめ、先生の同僚の 方々、地域の人々、教え子たち、企業、ボランティアの皆様方の支えがあったことも感謝しつつ、 今日を迎えられたことは感無量です。私たちの両 親(加古川市手をつなぐ育成会初代会長)も喜ん でいることと思います

* * * * * * * *

わかば学園との出会いと公文式学習

(公文教室ボランティア 渡辺 千加子)

今から約40年前、神戸から主人が育った加古川に引っ越してきたときでした。主人が「君に会わせたい人がいる。」と言って連れて行ってくれたのが、北在家にあった「わかば学園」でした。そこで初めて久保田先生にお会いしたのです。主人の小学1年、2年のときの担任だった先生は、主人の顔を見るなり、「しんちゃん、よかったね」と涙して喜んでくださったのです。私は、ただただびっくりしました。

小学校の先生を辞められ、わかば学園を立ち上げられた、思いやりの深い温かい先生に心から引かれて行きました。それから、バザー等のお手伝いをさせていただくようになりました。

その後、公文式の指導者となり、個人別学習の 公文式が園生に役立てないかと考えて、当時の姫 路事務局長に相談しました。その結果、自由にや っていいと快諾を得たのです。

最初は、友人といっしょに公文のプリントを月に2~3回、土曜日に学習していました。そのときから、もう30年近くになります。大きな進歩は見られなくても、園生のみんなが楽しくプリントに向き合う姿勢を大切にしてきました。

10 年前に私が公文式の指導者を辞めるとき、学園での学習を継続することは無理だなと思いました。でも、みんなの熱意に大阪の本部から、「教材を購入してもらえれば、後は久保田先生と私が元気に続けることができる間はやってください」との許可を得ました。現在も温かく見守ってくださっています。

いつもみんな公文の日を楽しみに待っていてくれます。今では、宿題をする人も増えてきました。 ボランティアの岩谷さんや職員の方に手伝っていただきながら、みんなで頑張っています。

学習後の語りや絵本の読み聞かせも、楽しみの 一つになっています。そして、学園や園生たちの ことを考え、いつも前向きに進んでおられる久保 田先生をはじめ、園生のみなさんから、私の方が いっぱい元気と勇気をもらっています。ありがと うございます。

園生のみなさんと向き合える時間を大切にして、 これからもいっしょに小さな歩みを続けていきま す。

50 周年おめでとうございます。久保田先生や 園生のみなさんの健康と学園の発展を心より願っ ています。

\$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$

障害のある人と教育で関わりたい、 障害のある人と共に成長したい (元公文事務局員 須知 良正)

ご無沙汰しています。わかば学園のこと、実は数日前に思い出していました。

久保田先生はまだ運営なさっているであろうと。 不思議なご縁です。

50 周年という長い時間も驚きです。敬服の一言です。ぼくがお世話になっていたのは、40 周年の頃だったのでしょうか。50 周年の記念行事に残念ながら伺えませんが、直接お祝いの言葉をお伝えできなくて残念です。

久保田先生から本当に福祉の心を教えていただきました。渡辺先生からボランティアの心を教えていただきました。尊いお出会いです。あの時、研修会で学んだことが今、私の仕事として役立つことが何より喜びです。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

可能性を最大限伸ばしていく「わかば学園」 公文教育研究会 法人大阪リーダー 伊丹 美華

わかば学園の皆様、創立 50 周年誠におめでと うございます。心よりお祝い申し上げます。

久保田園長先生ご夫妻様による深い愛と熱き志、 また、その思いに賛同された多くの方々や地域社 会の皆様方によって愛され育まれてこられた、わ かば学園様は、福祉施設の鑑といえる素晴らしい 施設と確信しております。

半世紀の重みは、決して一言で語ることはできませんが、数々のご苦労と、それを上回る感動や喜びに満ち溢れていたことと存じます。そして、

わかば学園様の基本理念である『集うお一人おひ とりが「人」として重んじられ、可能性を最大限 に伸ばしていく』ことを、公文式を通して見事に 実践くださっている渡辺先生の測り知れない、ご 尽力に心より感謝申し上げます。

久保田先生、渡辺先生、そしてわかば学園の皆々様がいつまでもお元気でますますご活躍されますよう、心よりお祈り申し上げます。

(公文教育研究会 平松 一成)

この度は、わかば学園創立 50 周年、誠におめでとうございます。

50 周年というと我々のような企業でも、30 年で 0.021 パーセントしか残っておりませんので、 その偉大さがわかります。

しかも、企業なら自分たちで利益をあげながら続いていきますが、御園は地域の方々に支えられながらの50周年ですから、その偉大さはなおさらですし、久保田園長の親切心や心意気が、地域の方々の良心と強く結びついていることを物語っています。

また、久保田園長と志を共にされる渡辺先生は、 個人別にすべての人の自立への可能性を追求している、公文式教育法の実践者です。

これから益々、利用者の皆様が生活の幅を広げて、地域の方々との交流の中で笑顔が溢れる未来を、心からお祈り申し上げます。

(公文教育研究会 平位 郁代)

わかば学園様の開園 50 周年、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私は公文式学習を通して、園生のみなさんとたくさんの思い出をいただきました。公文の日に園に着くと、みなさんは草引きなどの作業を終える頃で、学習の時間には見事に切り替えて、集中して取り組まれるのです。学習後、渡辺先生の心温まる絵本の読み聞かせでは、園生のみなさんが想像をめぐらせてお話を聞いたり、楽しそうに渡辺先生と対話をされるのです。バザーに行くと、それぞれの持ち場にいる、みなさんと話ができるのが楽しみの一つでした。最後の日、久保田園長先生が「頑張ってくださいね」と言って、これ以上ないくらいに強く握手をしてくださり、パワーをくださったことを今も思い出します。

わかば学園様におかれまして、これからのます ますのご発展とご健康をお祈り申し上げます。 ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

素晴らしきかな久保田先生

(倉掛 八郎)

久保田先生は、私の妻とその兄の小学校の恩師です。妻は事あるごとに、久保田先生のなつかしい思い出を話します。

先生は学校の帰り道、時々、兄弟の家に立ち寄り、母親と話をしていた様子や、「進ちゃん、進ちゃん」とかわいがられていた兄のこと。そして、 先生の姿から生き方について教えられることがいっぱいあったと、楽しそうに話します。

義兄の家族は長年、わかば学園においてボラン ティア活動をさせてもらっています。

私たちは 1995 年阪神淡路大震災被災。生活再建のため起業、神戸垂水に小さな店を開店。休みなく早朝から働きどおしで数年後、店は軌道に乗る。

それは周囲の人に助けられたこと、お客さんのおかげと感謝しています。

ものを考える余裕ができて、避難所生活の中で、 周りのお年寄りや障害者の姿が目についた。いた わりの言葉はかけられても、我が身のことが精一 杯、物質的にしてあげられる境遇ではなかった。

店は仕入先、従業員、お客さんにも恵まれて繁盛。とりわけ、久保田先生によくしてもらいました。

妻は、ずっと心の中で思っていたのか、何か社 会の役立つことをしようと言葉にした。

わかば学園は、巻き寿司を作って販売している と知る。播州の人は穴子好きが多い。それなら、 店(魚彩)のうまい焼き穴子を提供できる。必要 な量を用意できるかどうかわからなかったが、と にかく匿名、無償ということで、必要なときに穴 子を焼いた。

しかし、2010年頃から年々、上質穴子が急激に不漁、仕入れができない。くぎ煮のイカナゴも不漁続きで、価格高騰、商品三本柱の内の焼き穴子、くぎ煮がなくては、店は成り立たない。

繁盛店、悔しいがここらが潮時か。惜しまれながら 17 年春閉店。穴子さえ仕入れができれば、巻き寿司の提供を続けられたのにと思うと、残念でならない。

いつの日か、イカナゴが庶民の口に戻ってくれば、おいしいと全国で評判だった魚彩の特製くぎ

煮の作り方を伝授、鍋窯道具一式を学園に提供。

わかば学園から声がかかれば、いつでも鉢巻しめて出向きますよ。

久保田先生は自分の欲で学園をしたわけではなく、素晴らしい人です。

* * * * * * * * *

50年とは

(冨永 高行)

この度は、わかば学園創立 50 周年のご寄稿ご 依頼がありました。本来、筆無精の私たちにとっ て、思い出は山ほどあります。いざ、文章にする となると、筆が進みません。

今、ここに浜の宮公園での運動会の写真があります。わかば学園のプラカードを持った、楽しそうな行進です。日頃は、男子は印刷、女子にもそれぞれに与えられたお仕事、ケーキ作り、箸の袋入れ、お母さんたちのお仕事のお手伝い、それに畑仕事と、みんな一生懸命でした。

夏には、学園前の公園でのお祭り。秋にはバザーで大変でしたが、なつかしい思い出ですね。

50 年と一口に言いますが、高行の勤めていた 会社は、創立50周年を迎えた頃、合併で社名消滅のおそれがあった頃です。また平和と繁栄を謳歌した平成の時代も、30年ほどで終わりました。

50 年とは半世紀、いかに偉大な継続であったか、敬服のほかありません。継続とは力と言いますが、ここまでに至った力は、学園の皆様の頑固な意思と周囲のご理解が、風雪と世間の意思の変動に耐える力となったと思います。

特に、近隣の皆様の暖かいご理解は、久保田先生の日頃のご人徳があったからこそと考えています。

どうかこれからも良い後継者に恵まれて、末長く続けられることを祈ります。私たちは静岡に来て31年になります。高齢であまり健康ではありません。これからも、何かのお役に立つこともできませんが、なつかしい皆様の思い出をいつまでも大切にして、皆様のご健勝と発展をお祈りします。

どうか皆様、お元気に。ご活躍祈ります。

 $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$

(黒田 英郎)

今から、ちょうど 50 年前の昭和 44 年の春です。いつものように神戸新聞を見ていて、地方版のある記事に吸い寄せられるごとく、「わかば学園を開園」といったもので、久保田静子先生の名前に「えっ!」と思いました。別府小学校のときの恩師です。記事には、先生は知的障害を持った人たちが小・中学校までは通学できるが、中学校を卒業すると行くところがなく、また、親御さんに大きな負担がかかると。そこで、自分がそういう人たちの受け皿をつくろうと、わかば学園をつくられたそうです。そういうことで何かお手伝いをしたいと、反射的に思いました。でも、その記事を読んで、今は先生宅では、教え子たちでお手伝いしたいという人たちが、いっぱいではないだろうかという観念に襲われました。

そんな中へ自分が入るのは、おこがましいかなとも思いました。とりあえず、少しばかりの寄付と、手紙に何かお手伝いをしたいと送りました。後、返事をいただき、「なつかしく一度来てください」としたためてあり、すぐ後日にお伺いしました。1時間くらい話したでしょうか。何をお話ししたかは覚えていませんが、帰り道、車の運転をしながら、誰かにいっしょにやらないかと声をかけようと思っていました。数日後、山陽電車の別府駅で学校帰りの、細川君、三枝君とたまたま会い、例の件を言いました。「ボランティアをしてみないか?」と。両君とも躊躇なく2つ返事で賛同してくれました。

その後、同級と1年下と合わせて男4名・女子5名とが集まりました。久保田先生の教え子ばかりです。

グループ名は、「あじさいグループ」としました。 発案した人は、小さい花が集まって、1つのきれいな花になっているからという意味を込めたらしく、賛同しました。9名、みんなが集まった席上、誰ともなく活動資金を集めようということで、廃品回収の案がでました。そして、メンバーの親御さんの婦人会の手も借り、実行しました。

さて、学園のお手伝いの 1 つに、冬の時期にどこだったか、出かけたときのことです。夕方の帰り道で、雪がガチガチに踏み固められて、氷状態になっている下り坂を降りるときに、滑って転んでしまうのです。そこで、少し下で待ち受け、滑らず転ばないように 15 名くらいでしょうか、サポートしました。このときは、役に立っていると

実感して、ワクワクしたものでした。その後も、 海や山へ行きました。また、今でも学園特製のわかばクッキーの作り方を教えている樋口さんもいます。メンバーの年齢も行き、社会人へ、家庭を持ちと、活動も尻すぼみとなりました。ただ、秋のバザーだけは集まりました。学園も長い間、行政の補助もなく運営していました。

メンバーの一員で若くして亡くなられた下司さん(享年68歳)の尽力、ご活躍あってこそ、数年前より法人化されています。

そんなこんなで 50 年、少しはお手伝いできたかなと思います。これからもできるお手伝いをさせていただこうと思っています。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

絵手紙交流展の思い出

(大西隆子)

平成15年5月2日、加古川町寺家町に「わかば愛ランド」がオープンしました。

当初、ワッフルをメインに、その甘い香りでお客様を呼び込みたいとの思いを込めて、入口近くで焼くように設計されたと記憶しています。メニューは、ワッフル、お好み焼き、コーヒー、クッキー等すべて 100 円で、「100 円喫茶」にしようと盛り上がりました。

次に、壁面の利用を話し合ったとき、久保田先生は園生の絵画や書を展示したいとの思いがおありでしたが、作品集めが開店に間に合いそうになく、急遽、私が絵手紙交流展をすることになりました。私は、下手の横好きで絵手紙を始めて3年目、幸い「絵手紙友の会」に在籍していましたので、多くの仲間たちから届いた絵手紙を見ていただく絶好の機会だと思い、引き受けました。

手作りのつたない案内状を旧友、知人、兄弟に送り、2日から7日までの短い間でしたが、氏名を記帳してくださった方は68人ありました。

その後、平成 16 年 6 月と 17 年 7 月に展示させていただき、延べ 200 人余りの方に観ていただくことができました。

何回目の交流展だったか定かではありませんが、「このハガキ 1 万円で全部買うわ」と言った、初老の男性がいました。私は丁寧にお断りしたつもりでしたが、「お高くとまりやがって」と言われた言葉が、今も心の奥深くに残っています。人を相手の仕事の難しさを知った出来事でした。

* * * * * * * * *

「お好み焼き」を焼き続けて

(高校教師 蓬莱 真吾)

わかば学園設立 50 周年おめでとうございます。 わかば学園へ行き始めたのは、30 年以上前の 高校生の頃だったと思います。母親に頼まれ、行 き始めたのですが、はじめはそんなに積極的では ありませんでした。ただそこでの居心地の良さと、 利用者の人たちが暖かく迎えてくれたこと、そし て何より久保田先生の人柄に魅かれて、続いてき たボランティア活動だったと思います。

私の仕事は、もっぱら「お好み焼き」を焼くこと。小さい頃、姫路の山陽百貨店の地下の「にくてん焼き」が大好きで、わかば学園のバザーなどで何かするときに、同じくボランティアをしていた母親に「にくてん焼きみたいなもの焼いて売ったらどう?」と、言ったことがわかば学園のお好み焼きの始まりだったのではないかと思っています。それ以来、夏のふるさと祭り、盆踊り、11月のバザーなどでずっと焼いています。

阪神淡路大震災以来、ボランティアが注目されるようになりました。「自分は手伝いに"きてやっている"ではなく、相手の立場に立って考え、行動する」「無理をせずできることから始め、長く続ける」「自分のことは自分でする」など、ボランティアのあり方や心構えが言われるようになりました。私はずっと前から、わかば学園でボランティア活動を通して、そのようなことを自然に教えてもらったように思います。

一番の気づきは、ボランティアを終えて帰る時、 保護者の方や学園の先生方は、「ありがとうござい ます」と、気持ちよく言ってくださいます。利用 者の親や職員の方は、バザーの時には前日の夜中 から何時間も仕込み・準備にかかり疲労困憊、そ れでも私らに「ありがとうございます」と、言っ てくれます。おそらく保護者の方は誰かに「あり がとうございます」と、言ってもらうことも少な いのではないかと思います。わかば学園にある、 いろんな器具を高校の文化祭で借りることがあり ます。久保田先生にお礼を言ったとき、「私らはい ろんなことをしてもらうばかりで、『ありがとう』 と言うことは多いけど、『ありがとう』と言われる ことが少ないんです。」というようなことを言われ たことがあり、その時に「はっ」としたことがあ りました。その時から、自分のボランティア活動 への取り組み方、考え方も大きく変わったと思います。

以前、「いなみ野特別支援学校」に勤めていたこともあり、わかば学園に行くと卒業生に会うこともできます。また、私自身地元で育ったので、わかば学園に行ってお好み焼きを焼いていると、同級生も顔を見せに来てくれます。現在勤めている高校や、以前勤めていた高校の生徒がわかば学園でボランティア活動をさせてもらっています。やっぱり、私にとってわかば学園はかけがえのない場所です。今しばらくお好み焼きを焼き続けようと思っています。

 $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$ $^{\diamond}$

(本間 隆志)

わかば学園開園 50 周年、誠におめでとうございます。

今から 29 年前、恥ずかしながら、私が「いなみ野養護学校」(現「いなみ野特別支援学校」)に赴任したことをきっかけに、わかば学園の存在を知りました。また、卒業生や実習生がお世話になっていることもあって、訪れる機会ができました。そこでは、クッキーを焼いたり、の農作業をしたり、生き生きとみなさんが活動されていました。当時、同僚であった蓬莱教諭から設立の経緯を聞き、久保田先生の懐の大きさに感銘したことを覚えています。

運営上大変だったと思われますが、多くの卒業生を受け入れてくださったこと、また転勤後も、「いなみ野陸上部」の同窓会に場所を提供していただいたことなど、ご無理ばかり申しましたが、いつも久保田先生が快く対応してくれたことは、今でも忘れていません。

蓬莱教諭から誘われ、夏の盆踊りと秋の尾上公 民館のバザーと、年に2回はお邪魔する機会があ り、わかば学園のみなさんと久保田先生の姿を拝 見して、いつも元気をもらって帰っています。

これからも益々のご発展をお祈り申し上げます。



御縁

(安達 昌子)

わかば学園とのお付き合いは、私の今は亡き夫、 洋画家:安達巖の新聞記事から、学園でボランティアをなさっていた(現在も)渡辺千加子様から、 お手紙をいただいたのが始まりだったと記憶して おります。

私が60歳のラブレターの原稿募集に入選し、その後、地方において朗読会に使用していただいている内に、読売新聞社から千里のホールに招待されました。そのとき、夫の遺作展の準備中で、遺作展の成功しか頭にありませんでした。司会者から舞台の上へと促されると、この機会をむだにしたくない思いで、近鉄デパートで開催される夫の遺作展の宣伝をさせていただきました。遺作展が始まって1週間後、近鉄デパートの支店長さんが満員盛況のお礼にて来られて、恐縮した記憶が鮮明に今も残っております。

夫は生前、社会に対していつも謙虚に、「今ある 自分は幼い時から育てていただいたという思いで、 恩返しをさせていただかないといけない」といつ も言っていました。だから、「夫の行動には口出し するな!」と常に頭において、私は37年間、夫 に従って生きていました。

遺作展にわかば学園から3名の方がお見えになり、「わかば学園にもお話に来てほしい」と、素人の私にお声をかけていただきました。そして、学園の会場にて講演をしましたが、1時間の予定時間をはるかに超えた思い出があり、今も恥ずかしく感じております。そのとき、初めて園長先生ご夫婦にお会いし、この園にあってこの園長ご夫婦ありと、久保田園長先生ご夫婦に対して、一瞬に尊敬の念に変わりました。このすばらしいご夫婦のもとで園生たちは幸せだなと、喜びの気持ちに変わったことを覚えています。この気持ちは、今も変わることなく持っています。自分に何かできることがあれば協力したいと思いながら、この年まで来てしまい、反省しています。

この 50 周年を心からお祝い申し上げ、園長先生のご努力にもお礼を申し上げたいです。

私も障害者とわかって、周りの反対を押し切って夫のもとに押しかけ女房になり、気難しい厳しい夫ではありましたが、夫に従って生きてまいりました。しかし、1度も後悔はいたしません。どこか夫の人に対する生き方を、私も微力ながらも真似をしているのかもしれません。

私も体力の衰えを感じながらも、絵を描くことの意欲を持ち続けています。残念ながら、大作を荷造りする力はなくなっていますので、今回はバザーに間に合いませんが、今後は小品を描き、お送りしたいと考えています。その折は、気軽に受け取ってください。今、宮崎においては県展だけに出品いたしております。今後、小品を描く時間を持ちたいと考えていますので、もう少しお待ちください。

今後もわかば学園の発展と、園長先生はじめ皆様のご健康をお祈りいたしております。

\$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$

50 周年によせて

(高砂市議会議員 鈴木 利信)

わかば学園 50 周年、本当におめでとうございます。心から祝福いたします。

私が、わかば学園との関わりがあったのは、加 古川東高等学校で、JRC 活動をしていたときでし た。40 年以上も前のこととなります。

園生の方とプールにいっしょに行ったことを覚えております。

その後、私の名刺の印刷をお願いしたら、餅つきの道具一式をお借りして、娘の高校の PTA 活動に使わせていただいたり、時々ですが、交流させていただきました。

いつもこちらの都合で、勝手に訪問させていた だいておりましたが、いつも暖かく迎えていただ きました。久保田先生の姿勢には、いつも尊敬し ております。

今後も、わかば学園がますます発展されて、久 保田先生もお元気で、続けられることをお祈りい たしまして、お祝いの言葉といたします。

40年前の思い出

(洒見 真一)

50 周年おめでとうございます。長きにわたって、様々な試練を乗り越え、園を発展させてこれらたことに、唯々敬意と祝意を表します。

今まで余りお役に立てていない者なので、投稿をためらいますが、おめでたい節目のときですので、40年ほど前の自分のメモ書きを参考にして、思い出を綴ることにします。

当時、毎週休園日の前夜にボランティアグループが集い、ワイワイ言いながら園のお手伝いをしていました。ボランティアといっても、ほとんどが福祉の専門職の若い方々たちでした。門外漢の私は、園長先生を囲んだ語らいを、作業をしながら聞かせていただいて、福祉の現状や園生のみなさんの日常を少し知る機会となっていました。

そのグループで、園生の運動不足解消として、 レクレーションを兼ねて、競技大会をしようとい うことになって、公園で秋の1日、楽しみました。

リレー大会や玉入れやバレーボールなどいろい ろしたのですが、パン食い競争の最中のことでし た。3グループの選手3人が出発点から走って行 き、糸にパンがぶら下がっている所には着いたの ですが、1人がうつむいて動きません。他の2人 はパンをくわえようと挑戦していたのですが、首 がだるくなって一休みしたとき、下を向いて暗い 顔で立ち尽くしている友だちに気付きました。最 初は何事かわからず、ぼんやり見つめていて、や がて悲しげな顔つきになりました。そのとき、出 発点からの「早く食べて!」という声で我に返っ たように、また食べにかかり、なんとか2人は食 べ終えて、出発点に引き返そうとしました。とこ ろが、まだ立ち続けている友だちが目に入りまし た。そうると、もう放っておけない様子で、手を 使ってはならないルールを守って、肩でその友だ ちを何度も押し続けて、パンが顔に触れる位置ま で連れて行きました。やがて、顔の前でプラプラ するパンが気になりだして、思わず大口を開けて パクつくと、うまい具合にパンがつかまり、食べ ることができました。3人はアンコまみれのうれ しそうな顔で、肩を叩きあって走り出しました。 見守っていたボランティアはほっとするとともに、 何か暖かなものに包まれているような感じになり ました。

その後も、いろいろな競技をしましたが、めったに競争というものをしないので、みんな真剣だし、勝てばもちろんうれしいのですが、誰かが転んだり、取り残されて大きく遅れたりすると、立ち止まって待ってやり、揃ってゴールする姿を何度も目にしました。そうするように指示されてしているわけではもちろんなく、自然な心のままが、行いとなっているようでした。

園生みんなの純粋な心が、園長先生の常日頃の 導きによって、大らかな優しさに育まれていると 感じました。競争社会に生きていて、私たちが忘 れかけている人間としての大切なことを、園生の みんなによって気付かせてもらったことが印象深 く心に残っています。



50 周年によせて

(沼倉 典子)

わかば学園開園 50 周年おめでとうございます。 私は 1985 年から 1997 年頃まで学園に出入り していました。

当時はまだ小さな作業所で、久保田先生を中心に利用者さんと保護者の方、地域の方やボランティアの方が支え合って運営されていて、家庭的で居心地の良い場所でした。

私はバザーや旅行などの行事で、ボランティアとして個性豊かな利用者さんと楽しく過ごさせていただきました。そして、今は亡き橘先生に学園で茶道を教えていただいたことが私の大切な財産です。利用者さんが帰宅された後の静かな学園でのお稽古。久保田先生も少しゆっくりされていて、一日の終わりにお喋りしながらゆったりとお茶に親しんだ時間が、なつかしく思い出されます。

現在はすっかりご無沙汰をしておりますが、この度、開園 50 周年という知らせを受け、その長い歩みを慮るとともに情熱を持って一つ一つ夢を実現されてきた学園の皆様には、尊敬の念を抱かずにはおられません。

久保田先生にはこれからはどうぞごゆっくり! と申し上げたいところですが、まだ夢の途中だと おっしゃっています。どうか末長くお元気で学園 とともに前進される姿を拝見させてください。そ れが一番の願いです。これからも応援しています。





特定非営利活動法人 わかば福祉会 わかば学園 理事長 久保田 静子

〒675-0025 兵庫県加古川市尾上町養田 351-4

電話•FAX:079-424-2002

メールアドレス: wakabagakuen@bb.banban.jp

ホームページ:http://www.bb.banban.jp/wakaba/

ブログ: https://yaplog.jp/wakabagakuen/1